

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2022年度) 評価結果報告書

2023年1月27日

社会福祉法人森友会
なかよしの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 -

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	②	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	④	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑤		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	なかよしの森保育園			
事業所連絡先	〒	165-0022		
	所在地	東京都中野区江古田4-16-13		
	TEL	03-5942-8816		
事業所代表者氏名	伊東 寛			
契約日	2022年 7月 1日			
利用者調査票配布日(実施日)	2022年 8月 22日			
利用者調査結果報告日	2022年 10月 26日			
自己評価の調査票配布日	2022年 8月 22日			
自己評価結果報告日	2022年 10月 26日			
訪問調査日	2022年 11月 1日			
評価合議日	2022年 11月 1日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)のうち、特に重要なもの(上位5つ程度)を簡潔に記述 (関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身の調和的発達を促す。 ⇒全ての子どもが、自分の流れで園生活を楽しむ。 ・基本的な生活習慣(食事・排泄・睡眠・着脱衣・清潔・挨拶など)の育成を進める。 ⇒全ての子どもが、無理なく自立の道を歩む。 ・集団への参加と自主協調の態度を養う。 ⇒全ての子どもが、異年齢集団との関わりによって協力・協働の喜びを知る。 ・正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味と関心を育てる。 ⇒全ての子どもが、自然・社会に積極的に関わる。 ・子どもらしい表現によって生きる力の基礎を培う。 ⇒全ての子どもが、自分なりに表現を楽しんで発表する。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>社会人として世の中の規範を守り、人には優しく常識的な行動をとるとともに、保育士として子ども達に温かい心を持って丁寧に接してもらいたい。主任、リーダー等の上位職にある人に関しては立場を自覚して、リーダーシップを持って各フロアの職員を率先して引っ張ってってもらいたい。経験の浅い職員は少しでも先輩の職員に近づこうとする意識を持ち、分からない事は質問し、自己研鑽に励んでもらいたい。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>法人理念である「全ての子どもの最善の利益のために」を常に考えて子ども達と接するとともに、子ども達の自主性・自発性を促す事ができる生活環境、遊びの環境を整え、目的や狙いを明確にした行事を行ってもらいたい。 職員は「先生」と呼ばれる事に対する自覚と責任を持ち、普段からの服装・態度・発言等を常に意識した行動を取り、他者との協調性を図り、保護者に信頼される人間関係の構築を行ってもらいたい。</p>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯80(在籍児童数98)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。
結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	98
利用者家族総数(世帯)	80
共通評価項目による調査対象者数	80
共通評価項目による調査の有効回答者数	61
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	76.3

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」22.0%・「満足」61.0%の計83.1%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「食事」など全17問中11問で80～90%台の高い支持を得ており、「安全対策」「外部相談窓口の周知」では50%を下回っている。
自由意見では「子どもの自由を尊重してくれ、上から押しつけるようなことは一切なく、遅刻の連絡を忘れると必ず確認の電話があり、安全管理もしっかりしていると感じる」「子どものやりたいことを尊重してくれる点、食育にも力を入れている点、異年齢保育、園庭や屋上等遊びの場の幅の広さなどがよい」「先生方が子どもの特性を重視して対応してくれ、子どものよいところを見てくれており、問題が起きた時には丁寧に事実を教えてくれる」「いろいろな活動を取り入れ、英語に触れられる環境はありがたく、ベテランから若手まで職員の層が厚く安心だ」「異年齢保育で多くの子どもたちとふれ合え、感覚を刺激するような遊びや学びを取り入れているところがよい」などの声が寄せられている。
さらなる向上を望む意見としては、日常の保育や保健衛生、子どもの様子の報告・説明・発信に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	55	5	1	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が90.2%、「どちらともいえない」が8.2%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は21件で、「異年齢での関わりや、家ではなかなかできない体験をしてくれるのでありがたい」「周りの友達、先生からの刺激は本当にありがたい」「定期的な表現・創作の時間によって年齢に合わせた心身の発達に役立つ活動をしてきている認識で、大変ありがたい」「保育士の対応にも満足しており、子どもも楽しく通っている」などのほか、戸外活動の充実を望む声が見られた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	56	4	1	0
「はい」が91.8%、「どちらともいえない」が6.6%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は15件で、「造形で道具を使ったり、魚や野菜に触れる機会もあるのでよいと思う」「天候や季節に合わせて工夫し、室内外で遊ぶ機会を作ってくれている」「子どもたちの意見を聞いたり、様子を見ながら環境を変えたりしている」「子どものやりたい気持ちを伸ばしてくれて、食育にも力を入れてくれ、子どもも楽しんでいる」などのほか、日常の活動内容や保護者への活動等の報告・伝達に関する声が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	56	5	0	0
「はい」が91.8%、「どちらともいえない」が8.2%となっている。 自由意見は11件で、「家では嫌がって食べなかったものを園で食べさせてもらえたようで、それ以降すんなり家でも食べてくれるようになり感謝している」「園でのご飯はしっかり食べているので助かる」「家よりもバリエーションがあるのでありがたい」「栄養バランスの取れた食事は非常に助かる」「おいしいと言っており、迎えの時にも報告してくれる」「園での食育のおかげで好き嫌いが少ないと思う」などのほか、おやつ提供量などについて、さらなる配慮を望む声があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	35	13	9	4
「はい」が61.4%、「どちらともいえない」が22.8%、「いいえ」が15.8%となっている。 自由意見は22件で、「年長になってから特に増えたと思い、『もりんびっく』など定例行事もたくさんある」「水遊びの日などはびしょびしょになりながら友達と遊んでいるようで、水遊びが大好きになったようだ」「コロナ禍で難しい中、いろいろと考えてくれている」「園庭や屋上での自然との関わりがあるようだ」などのほか、戸外活動等のさらなる充実を望む声や、それらの制限の一因となっているコロナ禍に言及する声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	42	7	0	12
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%となっている。 自由意見は11件で、「急な対応にも嫌な顔をせず優しく対応してくれて助かっており、感謝しかない」「急な30分残業等よく対応してくれており、残る子どもも寂しくならないよう保育士が気を遣ってくれているのでありがたい」「急遽迎えに行けなかった時に、夕飯まで食べさせてくれたので助かった」「連絡を忘れてしまったりすることもあるが、優しく柔軟に対応してくれ、とても感謝している」「土曜保育も適度に利用させてくれて助かっている」などの声が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	28	29	4	0
「はい」が45.9%、「どちらともいえない」が47.5%、「いいえ」が6.6%となっている。 自由意見は22件で、「コロナ対策・その他園で流行った病気等、随時連絡をくれるので対策しやすく、ありがたい」「特にケガをしたという話は聞かないのでそう思う」「傷を負ったこともあったが事情等を丁寧に説明してくれたので、こちらも納得できた」「不審者の対応訓練などは、しっかりとしていると思う」「安全面は大丈夫そうだ」のほか、保育中の安全管理や感染症対策、虫刺され対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	49	8	0	4
「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が14.0%となっている。 自由意見は12件で、「両親が参加する会は土曜日に設定してくれて、参加しやすい形にしてくれている」「保護者が参加する行事は主に土曜日や、おそらく普段のお迎え時間から考慮して平日でも参加できる時間帯にしてくれて助かる」「満足している」「日程は問題ない」「コロナのため回答不能だ」などのほか、行事の日程等における各家庭の負担や就労等への配慮や、コロナ禍の影響に言及する声などが見られた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	44	14	3	0
「はい」が72.1%、「どちらともいえない」が23.0%、「いいえ」が4.9%となっている。 自由意見は17件で、「毎日起きたことや子どもの発言などを教えてくれる」「日々の連絡帳も含め、送り迎えの際には何かあるか毎回聞いてくれるので、非常に相談しやすい環境だ」「迎え担当の保育士以外も、廊下などで会うと様子を教えてくれ、大変話しやすい雰囲気感謝している」などのほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告やその機会の確保、送迎時の職員の対応などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	50	9	2	0
「はい」が82.0%、「どちらともいえない」が14.8%、「いいえ」が3.3%となっている。 自由意見は10件で、「いつもきれいだと思う」「満足している」「特に気になったことはない」「玩具などは整理されていると思う」などのほか、各室内の清掃やコロナ禍に伴う園舎内へのアクセスの制限などに関する声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	53	6	2	0
「はい」が86.9%、「どちらともいえない」が9.8%、「いいえ」が3.3%となっている。 自由意見は12件で、「清潔感があり、笑顔がかわいらしい先生が多く、大変好感を持っている」「清潔感があつてよい」「皆喋りやすい雰囲気なので、大変ありがたい」「先生たちの個性も大切にしているのはよいことだと思う」「問題ないと思う」「特に気になったことはない」などのほか、職員の接遇や服装・身だしなみなどについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	50	9	2	0
<p>「はい」が82.0%、「どちらともいえない」が14.8%、「いいえ」が3.3%となっている。 自由意見は12件で、「熱の際も部屋を分けてケアしてくれており、『〇分以内に来てください』のような催促もなく、とてもありがたい」「発熱の際は迅速に電話をもらえるのでありがたい」「何度か早退したが、そのつど事務室で子どもが退屈しないようにしてしてくれるのでありがたい」「ケガなどがあった際にはすぐに連絡をくれる」などのほか、ケガや体調変化等の把握や保育中の安全衛生管理などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	30	21	3	7
<p>「はい」が55.6%、「どちらともいえない」が38.9%、「いいえ」が5.6%となっている。 自由意見は15件で、「しっかりと事実を教えてくれるおかげで、子どもにも嫉けられるのでありがたい」「満足している」「わが子からいさかいについて話を聞くことがあるが、その際の先生の対応について問題を感じたことはない」「そういった状況になっていない」「乳児クラスのため、まだそこまでは見えない」などのほか、子ども同士のトラブル等の把握などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	50	9	1	1
<p>「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が15.0%、「いいえ」が1.7%となっている。 自由意見は13件で、「子どもも楽しいようで、子どもの気持ちにとっても寄り添ってくれている」「個性を見てくれていると思う」「好きな先生が多いので、多分、大切に見守り預かってくれていると思う」「迎えに行くたびに、その日のできごとを教えてくれるので、きちんと見てくれているのだとありがたく思っている」「とてもよくなってきている」などのほか、子どもの気持ちを大切にされた対応などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	45	6	2	8
<p>「はい」が84.9%、「どちらともいえない」が11.3%、「いいえ」が3.8%となっている。 自由意見は5件で、「満足している」「よくも悪くも、あまり折り入った話はないと思う」「コロナで室内のおむつ替えスペースなどを見学できておらず、何とも言えない」のほか、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む声があった。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	41	16	4	0
<p>「はい」が67.2%、「どちらともいえない」が26.2%、「いいえ」が6.6%となっている。 自由意見は12件で、「アプリで連絡してくれるので、便利で助かっている」「満足している」「特に不明に感じたことはない」「持ち物や連絡がたまにわかりにくいと思うことがあるが、電話で問い合わせると丁寧に教えてくれる」「何で遊んでいた、昼寝の有無などは話してくれる」などのほか、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる工夫を望む声が寄せられている。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	43	7	3	8
<p>「はい」が81.1%、「どちらともいえない」が13.2%、「いいえ」が5.7%となっている。 自由意見は9件で、「満足している」「リクエストには可能な範囲で対応してくれていると思う」「不満・要望という程のことはないが、園でのわが子の様子について問い合わせると、きちんと丁寧に回答してくれ、ありがたいと思っている」「実際に不満を言ったことはない(非該当)」のほか、保護者の不満・要望等への対応などについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	18	20	8	15
<p>「はい」が39.1%、「どちらともいえない」が43.5%、「いいえ」が17.4%となっている。 自由意見には「園のしおりか何かに記載があったと思うし、それで十分だと思う」「まだその経験がない」「そういう機会がなかった」の3件があった。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定	
サブカテゴリー1(1-1)		
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー1の講評		
<p>目指す保育と子どもの育成のあり方について、保護者や職員への周知に努めている</p> <p>法人の基本理念とする「すべての子どもの最善の利益のために」に基づき、心身の調和的発達、基本的な生活習慣や集団への参加・自主協調の態度の育成など、5つの保育方針を定めている。保護者には「誉める保育」などの保育の柱とするものとともに見学・入園時に説明し、毎月の園・フロアの各便りや保護者会等での日々の保育の発信などを通じ、浸透と共通理解獲得を図っている。職員には入職時の法人による研修の際に理解と実践を促すほか、常勤者が年2回行う自己評価の際の再想起や、年度当初の園内の会議での確認などもなされている。</p> <p>組織が方向性を一にして日々仕事に取り組めるよう、さまざまな配慮がなされている</p> <p>上記の年度当初の会議では、前述の理念・方針等や保育の基調とする各手法のほか、「笑顔」「美しい仕草」など、日常の重要な規範を資料をもとに確認している。また園の保育とも関連づけ、今年度の「笑顔と思いやり」など、年度のスローガンを設定するほか、年間のテーマ「描く」や各フロアの毎月の目標も定め、フロアの目標は月末の振り返りも行っている。経営層は園長・主任を中心に、毎月の会議で折々の園の方針や法人の施策等を職員に発信しており、各職位・職種の仕事分担と組織の指示系統は、職務分担表と組織図によって組織内で共有している。</p> <p>検討すべき案件に応じた会議を整え、必要な情報を職員や保護者に周知させている</p> <p>保育・園運営とも「ワクワク感」を旨とし、子どもがワクワクできる生活の創造と、そのために職員がまずワクワクできる環境を整えることを、経営層の務めと考えている。園に関わる種々の意思決定は、毎月の職員会議や、経営層によるリーダー会議で行い、保育や子どもの状況などを話し合う各階のフロア会議など、実務的な会議も別途設けている。会議の内容を含む共有すべき重要な情報は、議事録や全職員閲覧の「コミュニケーションノート」等により組織全体に周知され、保護者には電子配信や書面など、案件に応じた媒体で各種の連絡事項を伝えている。</p>		

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		6/6
		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者や地域の未就園世帯の声を多様な方法で把握し、運営や改善の参考としている 保護者の意向を、日常の会話・連絡帳や個別の面談のほか、行事後の感想収集や、リモート形態も併用して継続する保護者会などを通じて把握している。行事後の感想等は連絡通信アプリのアンケート機能により把握し、同じ機能を用いて、園内の環境や職員の対応、絵本のリクエストなど、種々の質問を設けてのアンケートも別途行い、運営の参考とするとともに、保護者の問いに答えたり、意見を踏まえて教具紹介の掲示をより詳細にするなど、意向への対応も行っている。入園前見学の受け入れ時には、来園する地域の未就園世帯の声にも耳を傾けている。</p> <p>職員の意向や事業環境の動向の把握と、園・法人の中・長期計画作成がなされている 現場の職員の声は、前述の各会議や個別の面談などから把握し、保護者の声などとともに保育・行事や園運営などに反映させている。中野区の私立保育所園長会や同区及び都・関係団体等の発信物などから、施設運営に関わる地域や行政・業界内の諸情報を収集するほか、法人内のブロック別の系列園園長会や、別途設けられる幹部級者による統括園長会でも、関連の情報が共有されている。また法人内外の状況を踏まえた法人としての重点課題を示す「中長期・短期事業計画」のほか、園長作成の園単位の5か年の中・長期計画が作成されている。</p> <p>将来に向けた重点課題から日常の各種業務まで、各期間の計画が作成・実行されている 上記の園の中・長期計画では、一昨年度から5年を期間とし、現状認識と目指すべき目標、今後の事業環境の変化を見すえた生存戦略としての諸課題と、各年度の重点事項・取組項目を定めている。また年度の事業計画に、保育や人材の確保・育成など、運営全般の各分野の方針や取組の概要が示されている。各計画の関連を深め、課題解決や園の成長に向けた取組の指針としての実効性を高めることも期待される。保育をはじめとする日々の業務については、年間の全体像と具体的な取組・目標等に関する各計画の作成・実行と、必要な進捗確認がなされている。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
組織の倫理観を高く保つために、現場への啓発と注意喚起をさまざまに行っている 職員は入職時に、社会人としての種々の基本的な規範・素養を、法人の研修によって学んでいる。また園長が「なかよしの森保育園のルール」として、諸規定・規律の遵守や職員相互の尊重・礼節のもとで協力・協働、現場での適切な所作の徹底と虐待的言動の禁止など、全職員が徹底すべき規範を明示し、会議で啓発を行っている。ビジネスマナーについても適切なあり方の徹底を促し、一連の事故報道を受け、「確認」の大切さについて、ワークと小テスト、ゲームやロールプレイ等を交え、注意喚起を行うなど、組織的なモラルの維持と向上に努めている。		
園・家庭での虐待等の防止や保護者の意向への対応など、利用者保護に取り組んでいる 常勤者は年2回の自己評価を行い、一般職員用と園長・副園長用の各点検表により、法人の保育者としての規範や規律の徹底を振り返っている。また法人作成のチェックシートにより、子どもの尊厳や人権を顧慮しない不適切な関わりの排除について、全職員が年4回の内省を行うほか、虐待等の防止に向け、区及び法人の各マニュアルを備え、関係機関との連携体制を整えている。苦情解決制度に関する入園時の説明や園便りでの保護者への周知、口頭・連絡帳や「メッセージボックス」の設置などによる要望等の把握と、保護者の声への対応にも取り組んでいる。		
地域に根づき、開かれた園であるべく、透明性の確保や関係者との連携に取り組んでいる ホームページや区の媒体を通じた情報発信、法人共通の手順書等に沿った保育実習生や小中学生の職場体験生の受け入れのほか、地域の自治会に加入し、同会から委員が施設見学に訪れるなど、透明性の確保に努めている。また中野区の保育所園長会や要保護児童対策地域協議会、地域の保・幼・小の連絡会を通じ、保育・教育や福祉に関する関係者の連携にも加わっている。地域への施設機能の還元は、現状では見学受け入れ時の未就園家庭への相談対応程度となっており、前述の中・長期計画上の重点課題の一つとしても位置づけ、今後拡充を図る意向である。		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>防災・防犯や感染症対策などへの注力に加え、経営面のリスクへの対応にも努めている</p> <p>防災・防犯や各種事故の防止、新型コロナウイルス等の感染症のまん延防止など、安全衛生面の各種重要リスクへの対応を日常的に行うほか、少子化等に伴い、周辺地域で定員の減員が相次ぐなど、事業環境の変化への対応も重視し、積極的な見学受け入れや保護者への情報発信など、「選ばれる園」を目指した取組にも注力している。毎月の避難訓練では多様な時間帯・状況を想定して災害時の対応を確認し、事業継続計画(BCP)を感染症用と併せて整備しており、防犯訓練も年1回の警察署員来園を含めて毎月実施するなど、危機管理面の対策に努めている。</p> <p>SIDS・熱中症や子どものケガなど、保育中の種々の危険への対策にも取り組んでいる</p> <p>子どもの睡眠時の周期的な状態確認、心肺蘇生訓練実施など、SIDS対策に取り組むほか、環境省設定の指数に基づく戸外活動等の可否判断など、熱中症予防にも努めている。また子どものケガをはじめとする保育中の事故は、受傷のレベルを問わず状況確認と原因・対策の検討を行い、その他のヒヤリハットとともに、記録の共有や直後の会議「昼会」での報告などによる現場への注意喚起を行っている。看護師による毎月の集計・分析と会議での報告もなされ、法人が発信する系列各園の事例も回覧等で共有するなど、現場のリスクセンス向上に努めている。</p> <p>各種情報の利活用と適切な取り扱いについて、法人共通の規程等や仕組みを整備している</p> <p>重要書類の施錠管理や電子端末類の使用時などのログイン制限など、情報漏洩の防止に配慮するほか、クラウド上の法人内の共用データベースによる系列園間の情報共有など、情報の利活用にも取り組んでいる。また法人共通の「個人情報管理マニュアル」に、個人情報の利用目的や開示・訂正等の請求への対応方針、各種情報の取り扱いや漏洩・滅失の具体例などが示されており、関連の各種規程も別途整備されている。職員には入職時、実習生等には受け入れ時に、関連の啓発を行っており、保護者には入園時に、利用目的等の説明と同意確認がなされている。</p>		

カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ2(5-2)		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/3
組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当
カテゴリ5の講評			
<p>職員の確保と適切な人事の実施による人材構成の最適化や、労働環境整備に努めている</p> <p>職員の募集・採用は、法人内の担当委員会と系列各園が協力し、各種養成・採用機関や法人サイト・SNS、在職職員の紹介や関連のイベントなど、多様な媒体・方法により行っている。異動や配置等は、職位や担当・職種に応じ、各人の意向や経験・能力、期待される成長等を踏まえ、園内の状況と法人の人事制度に基づく適切な運用を図っている。就業状況の管理や休憩・休暇の確保、ストレスチェック実施など、労働環境の最適化にも努め、職員自己評価で見られた意見も踏まえ、現場の相互の支援や業務の効率化などに関する理解促進に努める意向である。</p> <p>職員の成長とキャリア形成の指標や、自己評価と面談による育成の仕組みを定めている</p> <p>「職員のキャリアプランについて」に、職員の入職後のキャリア形成の道筋と、一般職から園長・上位職者までの求める能力・姿勢、経験年数や必要な研鑽の目安を概略的に示すとともに、園全体の研修計画に、各階層に対応する主な研修を一覧化している。また法人共通の「振り返りシート」により、各職員が自己評価と年度の振り返り、次年度の目標や受講すべき研修の設定を行い、園長との面談によりこれらを共有する、個別の育成の仕組みを設けている。同シートは今年度、一般用と園長・副園長等の2様式に改められ、職位に応じた自己啓発が促されている。</p> <p>法人内での多様な研鑽と、園独自の新人・若手育成やチーム力向上の取組がなされている</p> <p>各種の外部研修の活用のほか、当園を含む系列各園で、法人の保育の柱である「誉める保育」について、視察と話し合いをもとに参加者の見識を高める研修が行われ、表現活動やチーム力向上、主任育成等に関する、法人アドバイザーや外部機関による研修も設けられるなど、法人内で研鑽の充実が図られている。また先輩・後輩を含む職員同士の相互支援のための「バディ制」を設けるほか、リーダー会議から新人が集う会議まで、話し合いの場を階層・年齢別に整備し、新人・若手向けの会議では主任がファシリテーターとなり、疑問や悩みの解決を支援している。</p>			

カテゴリ7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>昨年度は事業計画で重点事業とした「誉める保育」や戸外活動の充実、人材の確保・育成などに加え、職員の働きやすさを高めるための環境整備にも注力した。その前年度からのコロナ禍発生以降、対面によるコミュニケーションの制限や消毒・清掃等の保育以外の業務の増加など、現場の負担とストレス要因が増す中で、それらを軽減し、運営・保育両面の滞りない実施の前提である職員の心身の健康を維持するため、さまざまな取組を行った。</p> <p>保育書類や毎月の各便りを適宜統合・再編し、作成事務を軽減するなど、業務全般の見直しを図るほか、勤務シフトの工夫や近隣へのポスティングによる非常勤職員の確保など、人的体制の最適化にも取り組んだ。また一時保育料や給食費などの収受事務を、電子マネーシステムの導入によって効率化し、現金の授受をなくすことによる事故防止にもつなげるほか、一時保育についてはウェブ上の予約システムも導入し、予約受付に係る事務負担もこれによって大幅に削減された。また保護者への配付資料も電子化することで、印刷と手渡しを不要とするなど、ICTを積極的に活用するとともに、それとも関連し、PC・タブレットも増設した。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>上記のほか、園長の啓発や、提携する外部機関による主任育成のための各種研修など、役職者教育を継続的に行って、現場を束ねる者としてのリーダーシップの向上と発揮を促すほか、チーム力向上の研修も法人の契約する専門機関に委託して行った。これらを通じて、職員間の関係性や組織内の心理的安全性の向上を促し、各職員の意欲と帰属意識の促進を図った。</p> <p>取組は一定の成果につながり、特に組織のコミュニケーション環境やチームワークの向上などについては、今回の職員自己評価でも成果を挙げる声がさまざまに寄せられている。</p> <p>今年度も取組を継続するとともに、ICT活用のさらなる推進として、保護者と日々交換する連絡帳について、以前より導入している連絡通信アプリ利用への移行を想定し、今年度内の試行実施を目標として、法人内で設計や機能などに関する業者との検討を進めている。また業務全般の効率化にも引き続き取り組み、休憩の確保や残業の抑制をさらに進めるとともに、管理職者を含む職員の支援にあたるフリー保育士を配置するなど、働きやすい環境づくりへの注力も続けている。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度の事業計画では、内外に園の魅力をより積極的に発信する取組を、重点事業の一つとした。区内では少子化と行政の保育所整備がともに進み、各施設で0歳児の定員未達が生じているほか、当園周辺では小規模保育施設の撤退や、認可園の定員の減員が相次いでいる。職員採用の困難化も業界全体で慢性化しており、人材の確保も各施設の課題となっている。利用者にも職員にも選ばれる施設となるうえで、当園・当法人の保育の特色に関する情報発信の工夫や活性化に取り組むとともに、コロナ禍の影響を受けることなく入園希望者や求職者とのコミュニケーションを図るべく、オンライン媒体の活用にも取り組むこととした。在園の保護者には、毎日の各階の様子や食育活動、行事などを収録した動画を活発に配信した。また保護者会は来園・オンラインのいずれかを保護者が選択できるようにし、卒園式なども同様の形態として、各保護者の積極的な参加を募った。対外的な広報においても、内外の感染状況に応じた時間・定員により、入園希望者の見学を積極的に受け入れ、オンラインでの見学会も行った。また学生や求職者向けにも、同様にオンライン形態で見学の場を設けた。

目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

上記のほか、採用活動においては在職職員からの紹介も奨励し、他のルートからの応募者とともに、オンラインでの面接を積極的に行い、広域からの採用ニーズに応えられるようにした。また入園児確保の面では、在園世帯からの紹介による入園も得られたほか、情勢を見つづつ対面での施設見学も再開した。一連の取組は今年度も継続するほか、一時保育利用者にも動画配信等による情報発信を行い、今後は育児相談の場の設定も想定するなど、早期の利用者獲得に向けた方策の検討を続けている。

II サービス提供のプロセス項目 (カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
サブカテゴリ-1の講評		
<p>ホームページでは動画配信や広報物等を活用しながら、保育の方針や内容を発信している</p> <p>法人のホームページ(以下、「HP」)には、保育理念「すべての子どもの最善の利益のために」に基づき、「誉める保育」「夢中になって遊べる環境」「異年齢保育」の3つの大切にすることについて、象徴的な写真や端的な解説を掲載している。この他に、広報物「コンセプトブック」や園紹介の動画を公開し、保育理念とその具体的な内容、園生活の風景や子どもの姿などが、より伝わりやすいよう工夫している。園のページでは所在地・定員・保育時間などの概要のほか、一日の流れや年間行事、園までの経路や避難場所を示すマップも紹介されている。</p> <p>行政等の各種媒体を通じて、地域の方々へ園のさまざまな情報を提供している</p> <p>行政との連携のもとで園の情報を地域の方々へ提供している。区のHPにおいて、市内各園の住所・定員・開園時間などが掲載されるとともに、各園のHPにアクセスしやすいよう、リンク設定もなされている。また入園関連の各種資料に園の概要が紹介されるほか、区内各園の年齢ごとの定員と空き状況などもHP上で公開されており、定期的に情報の更新もなされている。その他、東京都の民間保育園協会で園の基本的な情報が掲載されるほか、定期的な第三者評価の受審と、「とうきょう福祉ナビゲーション」での結果の公表が行われている。</p> <p>利用希望者等の見学を受け入れ、園で大切にしている思いや保育の内容等を丁寧に伝えている</p> <p>見学は毎週火曜日に設定し、子どもの様子や活動の内容が見られる時間帯で電話予約にて受け付けている。当日は施設内を案内しながら、0・1歳児と2歳以上児のフロアごとの異年齢保育、子どもの発達や興味等に応じた環境・玩具の設定のほか、担任制でなく、フロアごとの担当制でのチーム保育などの特徴的な内容を説明し、随時、質問に答えている。また行事は子どもたちが頑張ったり、やってきたことを、その時の姿で表現しており、出来栄でなく、楽しんで実施することに重きを置くことなど、園で大切にしている思いや保育について、丁寧に伝えている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>利用開始にあたっての重要事項を保護者に説明し、同意確認も行っている</p> <p>入園が内定した世帯に対しては、説明会や面談、入園前健康診断を実施している。また事前に「入園のしおり」や各書類などを各家庭に渡し、各自における内容の確認と、重要事項の記入を依頼している。説明にあたっては感染防止に配慮しつつ、個別の面談形式で実施しており、同しおりをもとに、利用開始にあたっての保育・運営に関する内容、園での約束ごとなどを説明している。また適宜、質疑応答を行ったうえで、重要事項や個人情報の取り扱いに関する同意書を取得している。</p> <p>子どもの成育歴や健康状態などの情報を把握し、保育の開始に役立てている</p> <p>保護者との個別の面談では、所定の書式をもとに子どもの食事・排せつ・睡眠などの状況や健康面のほか、人との関わりや好きな遊び、集団生活の経験などについて、確認と聴き取りを行っている。また看護師から既往歴等の聴き取りを行うほか、食物アレルギー等の個別に配慮すべき事情があれば、医師の指示書等をもとに詳細な状況を確認したうえで、必要な対処につなげている。これらの把握した情報や一人ひとりの特性などを職員間で共有し、利用開始後の子どもへの配慮や保育の援助などに反映し、それぞれへの配慮に努めている。</p> <p>入園直後の親子への配慮や、利用終了時の不安軽減に努めている</p> <p>入園直後の子どもが安定して園生活に順応できるよう、短時間から徐々に保育時間を延ばしてゆけるようしており、面談の際に保護者の復帰までのいくつかのパターンを提示し、それぞれの希望に合わせて日程等を調整している。またお迎え時に子どもの様子を伝えつつ、保護者の不安軽減に配慮するとともに、状況によって日程を柔軟に変更することも行っている。利用終了時においては、保護者会の際に就学に向けた注意点や園で取り組むことなど説明し、質疑応答などを行うほか、その後個別に話をしながら不安軽減に努めている。</p>			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3の講評		
<p>子どもの成長・発達や家庭の状況に関する情報を把握し、適宜記録・更新している</p> <p>入園時には、成長発達や生活リズム、食事、遊びなどの子どもの情報のほか、保護者や家庭の状況を把握しており、入園後にはこれらの情報を定期・随時に更新している。身長・体重といった体格の成長については、毎月身体測定を実施して記録し、心身の発達状況については、主な発達の現れに関するリストを用いて、子どもの現状を把握することとしている。またリストだけでは表現できない子どもの成長や健康面・家庭状況などについても記述している。このほか、引き取り訓練の際や年度末にも、家庭状況等の変更の有無を聴き取ることとしている。</p> <p>全体的な計画をもとに長期・短期の保育計画を策定し、振り返りを次期の参考としている</p> <p>全体的な計画をもとに、年間を4期で構成する指導計画を作成しており、想定される子どもの姿・ねらい・養護・教育のほか、食育・長時間保育・異年齢保育・保護者支援に関する目標や内容を記載し、これらを月・週などの実践的・短期的な計画に反映させることとしている。2歳以上児は異年齢保育を実施していることを踏まえて一つの計画とするとともに、年齢・発達特有のねらい・配慮事項なども記載するようにしている。計画は周期ごとに振り返りを行い、次期の参考としている。全体的な計画は年度末にリーダー層による見直しを行うこととなっている。</p> <p>個別の指導計画を策定し、個々に応じた援助を行い、保護者に保育内容を伝えている</p> <p>集団としての計画に加えて、全園児について毎月個人別の指導計画を作成しており、集団の中で育つ子どもの継続的な育ちを把握し、個々に応じた援助を行えるよう努めている。一人ひとりの状況は、職員間の適時の口頭伝達やフロア会議などにおける話し合いを通じて伝え合い、発達の経過記録を参考に、リーダー層が環境構成や保育内容の充実を図るための指導・助言を行っている。保護者に向けては、保護者会で保育目標・保育内容や育ちの見通しなどを伝えるほか、希望・必要に応じて個人面談を行い、保育や援助の内容を伝えていく。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>個人情報・プライバシーの保護や、子どもの羞恥心への配慮に取り組んでいる</p> <p>保護者には入園時に、個人情報の利用に関する同意を、利用目的を伝えたくえ確認しており、情報を外部とやり取りする必要がある場合には、そのつど同意を得ることとしている。また子どもの尊厳を守ることができるよう、発達や家庭での生活リズムなどの把握のほか、保護者との共通理解の形成に努めている。子どものプライバシーや羞恥心に配慮し、着替えは上下を順に行って全裸にはならないように援助するほか、排せつの援助においては視線を遮って行い、トイレに誘う際には一人ひとりに細やかに対応できるよう、個別で行うこととしている。</p> <p>子ども一人ひとりを認め、それぞれの思いやペース等を大切にされた保育実践に努めている</p> <p>日々の会話や面談等で保護者の状況等を把握し、各家庭の意向や習慣に沿った配慮や支援に努めている。各フロアで異年齢の子どもたちが過ごす中で、一人ひとりの状況の把握と職員間での共有を行い、その子のペースに合わせた見守りと援助を行っている。また「誉める保育」を掲げ、子どもの存在を認め、目を合わせたり、ハグや拍手などで答えたりするほか、できなかったことでも、そのプロセスを大切に、子どもたちが達成感や自己肯定感が得られるようにしている。これらの実践のため、各会議で法人の大切にしている大人の仕事や心得などを確認している。</p> <p>虐待防止や保護者支援等の仕組みの整備と、各種の研鑽や情報共有を行っている</p> <p>虐待関係のマニュアルを整備し、登園や着替えの際の観察等から早期発見に努め、必要に応じて関係機関への通告や連携を図る仕組みを整えている。法人共通のチェックリストによる各人の振り返りを定期的実施するほか、職員会議において家庭状況等の内容を伝え合い、必要な配慮と寄り添いなどの支援の有り方について共有している。また行政が実施する外部研修や階層・経験に応じて受講が課せられるキャリアアップ研修において、保護者支援・対応に関する内容を受講することとなり、報告書の閲覧にて、組織内で知見を共有する仕組みとしている。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p>園運営の全般で必要となる各種マニュアルを整え、業務の着実な実行に努めている</p> <p>系列園共通のマニュアルには職員の心得や子どもの人権の尊重のほか、災害・アレルギー・安全管理・感染症などの各種業務の手順や考え方などを定めており、事務室内で閲覧に供している。また、園内でのより具体的な業務内容や職員間での決めごとなどをまとめた「なかよしの森保育園のルールブック」を整備し、年度当初に職員にデータ共有を行い、日常の手引きとして必要時の活用ができるようにしている。その他、日常的な業務や実践状況などを会議で確認するほか、清掃・安全などに関する事項はチェック表を用いて実施漏れがないようにしている。</p> <p>法人及び園内における各種の見直しと、改善・工夫などに取り組んでいる</p> <p>法人内の専門部会や各委員会による情報共有を図るとともに、それぞれの運営状況や行政等の通知などを踏まえ、各種の仕組みの見直しを行い、変更した内容等が各園に展開されている。園内ではリーダーを中心として園のしおりを見直ししており、改定した内容及び変更点を職員及び在園の世帯に周知を図っている。また各種の会議での討議や情報交換が行われ、業務の見直しを図り、充実や効率化に反映させるほか、毎月の園内研修ではテーマをもとに、フロア内外の視点でさまざまな改善や工夫へとつなげている。</p> <p>法人内での相互の研鑽のほか、安全衛生面での指導と情報等の共有が行われている</p> <p>上記に加え、「誉める保育研究会」では主任・副主任・リーダーを中心として系列園を見学しており、他の職員からの意見や提案を聴いたり、他園の状況を見て自園の保育に活かしたりしている。会議等において、看護師から熱中症やアレルギー対応、SIDS対策の徹底など、時期に応じた内容で指導・助言がなされている。またケガやヒヤリハットについて看護師による毎月の集計・分析と会議での報告が行われたり、適宜、発生した内容について、会議での報告をするなど、職員間の情報や意識の共有を図り、安全な保育提供にも努めている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの全体像の把握と、職員間の情報共有に努めている</p> <p>全年齢での異年齢保育となることもある当園の保育形態においては、全職員がすべての子どもたちの状況を知ることができる仕組みが必要となっている。子どもの発達や健康・情緒などの全体的な姿は、日々の園での様子のほか、保護者との送迎時のやり取りや連絡帳、個人面談などによって把握し、職員間の適時の口頭伝達や「コミュニケーションノート」への記入と回覧のほか、フロア会議・職員会議などを通じて共有に努めている。また園日誌にも、保護者対応・子どもの様子・保育環境・職員の動きなどに関する情報を記載し、共有につなげている。</p> <p>子どもたちの発達に即した環境構成の工夫に取り組んでいる</p> <p>0・1歳児の保育室では、子どもの歩行の状況に合わせた粗大運動ができる遊具や空間を用意したり、匍匐スペースも確保したりするほか、一人での遊びの保障にも努めている。教具は、操作や変化を楽しむ指先を使うもの、捻るなど手首や腕の動かし方を身につけられるもののほか、色や音に触れられるものなどを揃え、絵本ややり取りを楽しめるコーナーも用意している。2歳以上児の保育室においても、動の活動と静の活動をする空間を分け、発達に即したさまざまな要素の教具を用意し、子どもたちが主体的に選ぶことができるよう提示している。</p> <p>異年齢の年齢相互の育ち合いを促し、子どもの特性や状況を踏まえた援助に努めている</p> <p>0・1歳児、2歳以上児では、年齢相互の育ち合いが促されている。年上児たちへの関心や憧れから、年下児が遊び方や道具の使い方を学ぶ姿や、年下児を遊びに誘い、世話をする年上児の姿が見られている。保育者はトラブルや助け合いなどの子どもたちの関わりの姿を見守りつつ、時には一緒に関わり、代弁や仲立ちもし、子どもの自発的な姿を認め、誉める言葉かけや受容と共感の伝達を心がけている。特別な配慮が必要な子どもへの対応では、専門家によるアドバイスを受け、計画にも個別配慮を記載し、個々の個性に応じられるよう努めている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>毎日の子ども一人ひとりの状態の把握と、保護者との子どもの様子の共有を行っている</p> <p>登園時には、受け入れを担当する保育者が、子どもと挨拶を交わしながら、顔色や表情、機嫌のほか、目視できる範囲内の傷や熱の有無を確認し、保護者から子どもの様子や体調の変化、降園時間などの情報を聞き取っている。視診時に把握した情報は「受入・受け渡し表」に記入し、連絡帳の内容とともに職員間で共有し、休息の促しや検温のタイミングなどを個々に応じて行えるようにしている。降園時には、活動を伝える掲示物を作成し、保護者にその日の様子を伝えるほか、できる限り子ども一人ひとりのその日のエピソードを伝えるよう心がけている。</p> <p>基本的な生活習慣の習得への援助は、個々の発達や意欲などを踏まえて行うよう努めている</p> <p>排せつや衣服の着脱などの基本的な生活習慣の習得への援助では、子ども一人ひとりの発達や性格、意欲などの状況を踏まえるほか、保護者との連携にも努めている。排せつの自立に向けた援助は、子どもの排せつの間隔が一定になっていることや、子どもが尿意を感じていることを伝える姿などから、トイレに誘いかけるなど、パンツへの移行を始め、保護者にも園で取組を伝え、パンツの用意などの協力を呼びかけている。衣服の着脱では、一緒に行いながら手順やコツを伝え、自分で行おうとする姿が見られる時には見守り、さりげなく援助するようにしている。</p> <p>さまざまな所作の習得への援助に努め、休息は個々のペースで取れるようにしている</p> <p>上記のほか、生活の中で必要となるさまざまな所作の習得への援助に努めている。手洗いや歯磨きなどについては、保健指導の一環として行うほか、教具など共用物の片づけでは、収納すべき場所に写真を添付するほか、子どもへの声かけや問いかけをしながら、保育者も片づける姿を子どもに見せるようにしている。休息は生活リズムや体力を踏まえて個々に応じて取れるよう場所を確保しており、乳児の午前睡にも対応し、3歳以上児では、午睡は子どもが自分のペースで取っている。睡眠時にはSIDS対策を講じ、睡眠時の様子を定期的に記録している。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもたちが遊び込めるような環境構成の工夫に取り組んでいる</p> <p>教具は子どもたちの興味・関心を踏まえて適宜見直し、入れ替えや追加を行っており、教具棚や観葉植物・机などを用いて遊びの範囲をわかりやすくするとともに、遊びの性質を踏まえて教具を提示することで、遊びが過度に混じり合わないようになっている。また発達や理解力が異なる2歳児から5歳児までが同じ保育室で過ごすことへの配慮として、体格に合わせた机を用意するほか、職員の位置を工夫することで、それぞれの子どもの困り感や希望に応えられるようにしており、子どもの気持ちを確かめたり、遊びに誘ったりするなどの援助を心がけている。</p> <p>子どもが言葉の伝え合いを楽しめるよう、発達や理解力に即した援助に努めている</p> <p>子どもが言葉の伝え合いを楽しめるよう、保育者は子ども同士の、とりわけ4・5歳児などが興じる、見立てややりきりの遊びなど、言葉のやり取りのある想像の世界を尊重し、見守りつつ、子どもからの求めに応じて遊びに加わるなどの関わりに努めている。また乳児では、生活面の援助や遊びの中から、ものやことの呼び方や意味を認識できるよう、援助や遊びの際には、言葉を用いて語りかけることを大切にしている。そのほか、表現活動として行っているオペレッタ(音楽劇)や絵本の読み聞かせのほか、言葉のパズルやカルタなどの遊びも採り入れている。</p> <p>子どもの心身の発達や感性を育むさまざまな活動を行っている</p> <p>専門講師による造形活動では、子どもたちの発達段階に応じて素材や道具を選別し、さまざまな表現技法を体験できるよう取り組んでいる。保育室内には制作コーナーを設け、自由な描画や造形に取り組める環境としている。また年度後半に実施される「フェスティバル(発表会)」に向け、年間を通じて音楽劇に取り組み、表現力や想像力、協調性を養っている。園庭には滑り台・アスレチック・砂場・三輪車などを用意しており、遊びながら身体の使い方を身につけ、ごっこ遊びや見立て遊びを楽しむなど、子どもたちのさまざまな心身の発達を促している。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は普段の子どもたちの遊びや取組の発表の場とすることを大切にしている</p> <p>行事は、行事のために練習するのではなく、普段の子どもたちの遊びや取組の発表の場とすることを基本としている。また子どもの個性や性格のほか、状況などを踏まえた関わりを大切にしており、子どもによって異なる、積極的な参加や見学などのさまざまな姿を肯定的に受けとめられるよう心がけている。子どもたちの主体的な参加を促せるよう、オペレッタ(音楽劇)の前に実施する遠足では、内容に関連する場所を選択したり、夏祭りの前には共同制作に取り組んで本番を楽しみにできるようにしたりするなど、興味を持てるような工夫に努めている。</p> <p>夏祭りや「特別活動」など、さまざまな行事が保育に変化と潤いをもたらしている</p> <p>今年度の夏祭りは、1週間をかけ、毎日違う祭りの遊びを設定し、年長児はみんなで神輿を飾りつけて園内を練り歩き、雰囲気盛り上げている。伝承行事では由来を伝え、歌や遊び、風習を楽しむほか、行事食を提供するなど、文化を体験する機会となっている。年長児は「ぞう組特別活動」として園バスを使って博物館に出かけ、帰園後にはスイカ割りや夕食作り、謎解き園内探検などを楽しんでいる。子どもの誕生日の際には、歌を歌ってお祝いしたり、その子が好きな活動を楽しんだりしながら、皆で一つ大きくなったことを喜んでいる。</p> <p>「もりんびっく」や「フェスティバル」は日頃の活動の成果を披露する機会となっている</p> <p>「もりんびっく(運動会)」では、日頃楽しんでいるダンスや集団演技などに取り組んでおり、保護者を招いて全年齢で親子競技を採り入れ、一緒に楽しみながら子どもたちの成長を知ってもらう機会にもなっている。年度後半に行う「フェスティバル(発表会)」は、クラス活動として採り入れているオペレッタの活動の成果を発表している。子どもたちはオペレッタを通じて、言葉や身体を使って表現することの楽しさを知り、集団での活動の中で一つのものを作り上げるためには、ルールを守らなければならないことなどを、それぞれの発達に応じて学んでいる。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評		
<p>長い保育時間をリラックスし、健康的に過ごせるよう配慮している</p> <p>子どもたちがリラックスして過ごせるように、休める空間として、ゴロゴロ身体を横にすることができるスペースや、ソファやハンモックを用意している。子どもたちは主体的に自分の活動を選択できることで、長い保育時間を自分の体調や気分に応じて過ごしている。幼児クラスの午睡では、家庭と連携を図りながら、子どもが自分の睡眠のリズムに応じて取れるようにしており、子どもの求めに応じて場所や寝具を用意している。また子どもの健康面への配慮として、登園時の視診のほか、必要に応じて検温を行うなど、体調の急変に備えている。</p> <p>一日を通じて子どもが楽しく過ごせるよう配慮している</p> <p>上記の通り、子どもたちはさまざまな遊びや仲間を自由に選び、過ごせるようになっており、園庭で身体を使って遊んだり、砂場で見立て遊びに興じたりするほか、室内にはパズルやカードゲーム、ままごとなど、さまざまな遊びを用意している。また延長保育では、日頃常設していない教具や教材も提供し、特別感や楽しみを見出せるよう配慮するなど、一日を通じて楽しく過ごせるようにしている。情緒面に不安がある子どもには、スキンシップを図るなどして安心できるようにするほか、夕食は保育者がそばにつき、楽しい雰囲気で作られるよう配慮している。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが自分の意思で食事を摂れるようにし、楽しい雰囲気づくりに努めている</p> <p>幼児クラスの食事は、生活と遊びのスペースとは異なる場所で摂っており、落ち着いた雰囲気の中で食べられるようにしている。また食事のための一定の時間帯を設け、その中で食べる時間や一緒に食べる仲間を、子どもが自分で決めることができるようにしている。準備を終えた子どもは着席して配膳を待ち、自分で食べられる量を保育者に伝えるなど、子どもが自分の意思で食事に向かえるようにし、保育者は子どもが気持ちよく食事ができるよう、机・椅子を清潔に保ち、会話をしたり、おいしさを共有したりして、楽しい食事となるよう心がけている。</p> <p>子どもの発達や体調などを踏まえた、安全な食事提供に努めている</p> <p>離乳食は保護者と面談を行い、経験済みの食材を確認したうえで、段階を決めて提供している。段階を進める際には保護者と連携を図り、咀嚼の状況や次の段階に進むために必要となる食材の経験を確かめており、初めての食材は家庭で複数回試してから提供することとしている。食物アレルギーを持つ子どもへの対応では、保護者との面談で対応に関する同意を確認し、提供時には各段階で複数職員が確認し、専用のトレーやネームプレートを使用するなど、誤配・誤食の防止に努めている。また子どもの体調によって、牛乳のお茶への変更等にも応じている。</p> <p>さまざまな料理を体験できる食事を提供し、発達に応じた調理体験など食育を行っている</p> <p>メニューは和食を中心とし、主菜・副菜はだしを効かせた薄味で調理するほか、できるだけ多くの食材や調理法に触れる経験ができるようにしており、国際食・郷土食や行事食など、いつもと異なる料理の提供も行っている。子どもたちの喫食状況は、給食会議等で職員間で共有し、硬さや刻み方の改善につなげている。食育活動としてレタスやほうれん草をちぎったり、ピーラーや包丁などの調理器具を使ったりするほか、調味料の計測などの調理体験にも取り組み、味噌汁やトマト煮などを作っており、年長児では自分たちで献立を考える取組も採り入れている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもたちが健康的に過ごせるよう、季節ごとでの指導や説明を行っている</p> <p>幼児フロアでは朝の会を実施しており、参加した子どもたちに室内や戸外での遊び方、寒さ・暑さに伴う衣服の調整など、季節ごとに伝えるほか、新しい玩具・道具の使い方を事前に説明したりもしている。また保育室に身体図鑑を手にとれるよう準備をしておき、それぞれの興味・関心に応じて調べることができるようにしている。日常的には生活の場面ごとに消毒や手洗いをを行うほか、看護師からの手洗い指導では歌に合わせて手の洗う手順を知らせたり、洗い残しのスタンプを使って視覚的に子どもたちにわかりやすいように工夫して伝えている。</p> <p>医師との連携のもと、子どもの個別配慮や健康面の支援にあたっている</p> <p>食物アレルギー等の健康面での個別配慮が必要な子どもの場合、かかりつけ医による指示書をもとに対応を確認し、園で必要な対処を行うこととしている。嘱託医による定期健診(0歳児が月2回、1歳以上児が年2回)や歯科検診が行われており、子どもの発育状況や健康状態などを確認・記録するほか、必要に応じて気になる事項の相談ができる体制を整えている。園内においては看護師が登園状況や欠席状況を各フロアをラウンドして確認しており、保育中においてケガや体調不良等があれば、看護師と連携したうえで必要なケアにあたっている。</p> <p>保護者に対して、感染症や保健に関する情報提供を行っている</p> <p>入園時に子どもの健康管理や感染症・SIDSの対策など、保健に関する内容を説明している。入園後は定期的に発行する保健便りを通じて、時期にあった園生活及び家庭で役立つ健康・安全面のほか、体温測定や光化学スモッグなど、保護者の疑問点や質問などを踏まえ、Q&A方式での情報提供もしている。またアプリを活用し、随時の配信を行ったり、保護者から欠席等の連絡のやり取りを行うほか、身長・体重の結果とカウプ指数なども保護者と共有している。なお、健康診断の結果については特記事項があれば、必要に応じて書面に通知している。</p>		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

保護者の就労や子育ての事情などを把握し、それぞれに応じた配慮に努めている

日々の送迎時の会話や連絡ノートのやり取りなどを通じて、各家庭の状況や子育ての意向などを把握し、職員間で共有し、必要な支援や配慮に努めている。延長保育は月極とスポットの利用が可能となっており、急な残業等に対してスポットで延長保育の実施を行うほか、その日の15時までにアプリ及び電話の連絡があれば、補食等の提供を行っている。保護者参加の主要な行事は土曜日に設定しており、年度当初の年間行事予定の配信と、毎月の便り等を通じた直近の予定のお知らせを行うなど、保護者が見通しを持ち、日程調整がしやすいようにも配慮している。

保護者との会話を大切にしつつ、多様な方法・機会でも子どもの様子や育ちを伝えている

送迎時のコミュニケーションを大切にしながら、子どもに関する情報を共有するとともに、フロア便りの発行や一日の報告の掲示にて、子どもたちの様子や姿などを保護者に知らせている。個人面談では開催前にアンケートを実施し、聞きたいことや要望などを確認したうえで返答するほか、園と家庭での子どもの様子を伝え合っている。保護者会においても、園の生活や子どもの姿、保育で大切にすることなどを説明している。なお、面談はリモートと書面、保護者会は対面とリモートなど、保護者の希望に応じて参加方法等を選ぶよう、配慮をしている。

行事参加を通じて、保護者同士の交流や親子での体験などが行われている

保護者同士の交流機会として、朝夕の送迎時の会話や図書コーナーでの親子・保護者同士の会話が行われている。また年2回の保護者会では顔合わせをするとともに、職員と保護者でいくつかのグループに分け、保護者間での悩みや家庭での子育ての状況などの情報交換を行っている。0・1歳児の「親子ふれあい保育」や2歳以上児の「もりんびっく」・「フェスティバル」等の行事は感染対策を講じたうえで、保護者に子どもたちの姿や日頃の活動及び関心事などを見て感じてもらうほか、親子で楽しんだり、参加者同士の自然な会話ができる機会ともなっている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>子どもたちが身近な社会に触れたり、さまざまな人との関わりが持たれている</p> <p>散歩には目的を持って出かけており、公園等で季節を感じたり、身体を動かして遊ぶほか、季節ごとの花や食育の食材を購入するなど、職員以外の人とのコミュニケーションを図り、社会に触れる機会ともなっている。またネイティブの講師の方を招いた英語活動を4・5歳児に導入し、外国の言葉に触れ、ゲーム等を楽しむ機会となっており、同フロアにいる2・3歳児も興味を持って一緒に楽しんでいる。その他、卒園児を含めた中学生の職場体験を受け入れており、子どもたちが一緒に遊んでもらいながら、少し年上の人との関わりが持たれている。</p> <p>園外での活動を取り入れ、子どもたちの体験が豊かなものとなるようにしている</p> <p>年長児は法人所有の園バスを活用し、さまざまな場所に出かけている。春の遠足では石神井公園のプレイパークで遊んだり、いつもと違った場所で昼食を食べるほか、夏の「ぞう組特別活動」では、子どもたちが興味・関心を寄せていた恐竜にちなみ、国際科学博物館に出かけている。また練馬区内の農園まで、ジャガイモ掘りに出かけ、土に触れながら収穫の実体験が得られるほか、子どもたちが起震車でシェイク訓練の体験をしたり、区内のホールでプラネタリウム鑑賞を行ったりと、多様な活動や体験ができるようにしている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	職位・経験に応じた育成や語らいの場を多様に設け、組織のチーム力向上を図っている	
内容①	外部機関と連携したチーム力向上の研修では、昨年度からリーダー育成を主眼に語らいと相互交流の場を設けている。また常勤者全体の会議に加え、経験年数ごとに新人・若手同士が集う機会として、「A会」から「D会」までの4種の会議を行っている。主任が進行・まとめ役となり、成長途上ならではの疑問や悩みの共有と解決や、清掃と環境美化など、テーマを設けての継続的な取組も実施している。毎年度の園のスローガン・テーマ、各階の月の目標の設定と振り返りなど、チーム単位での方向性の共有もなされるなど、組織の活力を高める多様な工夫がある。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者の理解が深まるよう、動画配信や親子参加など、行事の内容・方法を工夫している	
内容②	コロナ禍において、毎年の状況を見定めながら、行事の開催方法を検討しており、オンラインと対面などハイブリッドでの運用を行うほか、動画配信サービスを活用し、子どもたちの様子やその時の姿などを保護者に発信している。また「もりんびっく」は感染対策や防犯面、会場の関係上で、2歳以上児で行うこととし、事前に親子で踊るダンスの動画を配信し、各家庭において親子で取り組めるようにするほか、0・1歳児は「親子ふれあい保育」として子どもに無理のないようにしつつ、保護者と日頃の様子や活動を楽しみながら共有できるように工夫している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル③	さまざまな視点で課題抽出や検討に取り組み、改善や工夫へとつなげている	
内容③	3ヶ月に1回の保護者アンケートを実施し、園の運営や保育、家庭での子育てなどの多様な視点で、保護者の意向等を積極的に把握し、園内での検討・工夫の参考とするとともに、掲示にて集計結果を保護者に報告したり、個別の補足説明や対応などに活かしている。また職員会議や乳児・幼児のフロア会議での職員間の情報交換や勉強会の機会を設け、さまざまな討議や情報交換を通じて業務の見直しとその検討を進め、具体的な改善や効率化に反映させるほか、毎月の園内研修ではテーマをもとに、フロア内外の視点でさまざまな改善や工夫へとつなげている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	0・1歳児、2歳以上児は日々同じ空間で過ごし、発達異なる子どもたちの関わりを通じて、相互の育ち合いがなされている
	内容	各階で年齢異なる子どもたちが生活をともにする中で、幼児クラスでは援助を必要とする年下児に対し、積極的に世話をする年上児の姿や、助けてもらいながら生活の流れをつかんでゆく年下児の姿が見られ、年上児には優しい気持ちや頼られることによる自信が芽生え、年下児には気にかけてもらうことで安心を得て、さまざまなことに取り組もうとする心が育まれている。また一緒に遊ぶことで、遊び方の伝授や遊びの獲得など、年齢相互の育ち合いが促されている。0・1歳児でも同様にそばで過ごし、刺激し合うことで、多様な学びや成長が得られている。
2	タイトル	子どもたちの自己決定する自由の保障と「誉める保育」の実践を通じ、主体性や自尊心など、さまざまな心の成長を促している
	内容	日々の保育では、室内活動と園庭遊びを選べるようにするほか、自分が関心を持ったものに取り組む自由の保障に努めている。食事時間・午睡なども自分のリズムでとれるようにするなど、子どもの主体的・自発的な活動や選択を尊重しており、子どもたちは自己決定する体験を日々重ねることによって、主体性や自立心を育てている。また保育者は、子どもたちの選択や自由意志とその行動を肯定し、ハグや拍手、ハイタッチなど、身体を使って誉めることを大切にしており、誉めることを通じて自尊心や自己肯定感を育み、さらなる意欲の高まりを促している。
3	タイトル	個々の発達や興味、個性の把握に努め、すべての子どもに個別の計画を作成し、細やかな援助や保育内容・環境構成の工夫につなげている
	内容	保育所という集団で生活し、活動する中においても、一人ひとりの発達や個性の把握に努め、すべての子どもについて個別の指導計画を作成し、それぞれに応じた細やかな援助につなげている。子どもの家庭での生活リズム、食事や排せつの自立といった発達の状況を保護者と共有し、個々に応じた援助を行い、遊びや活動面では、子どもの興味・関心のほか、集団活動における子どもの関わり方の把握に努めており、オペレッタ(音楽劇)や造形活動では、個々の自由な表現を尊重し、発達段階に応じた教具の提示や環境構成の工夫にも取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者との理解共有をさらに深めるための改善・工夫に継続的に取り組みながら、それが結果として結びつくことに期待が寄せられる
	内容	新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、行事の開催方法を工夫し、オンラインや動画配信などを活用して子どもたちの日頃の様子や育ちの共有をしている。また各種便りの発信や一日の様子の掲示、作品の展示などのほか、3ヶ月に1回の保護者アンケートを実施し、積極的な意向把握と改善検討及び結果報告などにも取り組んでいる。これら多様な取組が行われているものの、保護者との理解共有という観点で、利用者調査の結果からはさらなる向上の余地が見受けられている。引き継ぎの改善・工夫に取り組みながら、それが結果として結びつくことに期待したい。
2	タイトル	法人共通の規範の一つとし、安全確保の面でも重要となる室内の美観の維持について、現場の意識をより高めることも期待される
	内容	日々の保育において、子どもの自由な発想や行動の尊重と安全確保との両立に努めている。誤飲や子ども同士のトラブル等の抑止などの面では、各室内の整理整頓も重要となるが、訪問調査時にはその点で課題も見られた。室内の美観を保つ習慣は、子どもの模範となる保育者の所作として、法人共通の規範の一つともなっており、目に映る環境が保護者の安全に対する印象に与える影響も小さくないと思われる。それぞれの保育者が日々子どもの丁寧な関わりに努めつつ、環境の美化にも怠りなく意識を向ける組織の文化を育むべく、さらなる啓発を期待したい。
3	タイトル	内外の子育て家庭に園の価値や魅力をより活発に発信すべく、活用可能な園の資源や地域への支援の企画をさらに検討されたい
	内容	コロナ禍による少子化の加速など、事業環境が年々厳しさを増す中で、保護者の信頼を確かなものとしつつ、地域にもより当園を知らしめ、「選ばれる園」となるための園の価値・魅力の発信を、中・長期的な重要課題の一つとしている。その第一歩として保護者向けの育児相談の促進に着手しており、今後は一時保育利用者などにも広げることを想定している。また保護者に提供する保健・安全関連の情報も地域支援の資源としたり、園庭開放などの実施も検討している。現場の提案も集めながら、当園の地域内での評価を高める取組を模索したいと考えている。